

令和7年10月14日

職員各位

八代市長 小野 泰輔

令和8年度予算編成に向けて

令和2年7月豪雨から5年が経過し、「坂本町の創造的復興」については、本年12月に地域の拠点となる坂本支所周辺の整備が完成を迎えるなど、着実に進捗しているが、創造的復興へ向けた取組は道半ばであり、これから先の取組が重要である。また、本年8月の線状降水帯による記録的大雨により、本市の広範かつ、様々な分野において甚大な被害が発生している。この8月大雨からの復旧・復興についても“最優先課題”として、一日も早い復旧・復興に向け、スピード感を持って、被災者に寄り添った対応を推し進めていかなければならない。

現在、“新たな基本構想”の策定に取り組んでいるところであるが、「子どもたちが誇れるまち八代」をともにつくっていきたいと考えている。その実現のためには、困難な状況に置かれている人に手を差し伸べられる施策や頑張っている人を後押しできるような施策を充実させることを念頭に、子どもの状況に応じた子育て支援の推進や柔軟な公共交通の構築、日奈久温泉等観光地の再生などについて、知恵を出し合ってもらいたい。さらに、県営工業団地整備による波及効果の最大化を図るなどの取組を着実に推進し、県南振興のけん引役を担っていかなければならない。

近年、賃上げ、物価高騰等によるコストが増加する中、限られた財源で、さまざまな市民ニーズに対応していくにあたっては、長期的な視点にたちつつも、社会変化に俊敏に対応するアジャイルの考え方を取り入れ、見直しや改善を重ねていくことが重要である。そのため、市の事業については、予算の用途を含め公開し、広く市民の評価を受けられる仕組みを構築したいと考えている。そのことを踏まえ、予算要求にあたっては、その事業が真に市民生活の向上に資するものであるかを精査し、市民の期待に応え得る予算編成になるよう取り組まれない。